

## ふるさと講座・自然系第2回目

### 「初冬の野鳥観察会-コクガンを観察しよう」のお知らせ！

野付湾を代表する渡り鳥、コクガンの観察会を実施します。

- 日 時 令和6年11月17日(日) 9:30~12:30
- 野付半島 (集合は野付半島ネイチャーセンター)
- 講師 NPO法人野付・エコ・ネットワーク
- 定員 10名(11月14日(木)までに、電話にてお名前・電話番号をお知らせください。)
- 服装等 防寒着、長靴などを着用してください。



## 出前移動展「アイヌ語通辞(通訳)加賀伝蔵物語」

この度、刊行しました絵本の出前移動展(パネル)を開催しています。

- 場所 野付半島ネイチャーセンター
- 期間 11月1日(金)午後1時  
~11月29日(金)午後0時まで



## 所さんのそこんトコロ「開かずの金庫」ロケ再び！

先日、放送された所さんのそこんトコロ「開かずの金庫」で、町指定文化財奥行臼駅と郷土資料館の開かずの金庫が開けられましたが、一つだけ開かない金庫があり、先月再びチャレンジということでロケが行われました。放送は、来月ということで、皆さん楽しみにしてください。



## 「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その13 メナシのアイヌと共生を目指した会津藩士南摩綱紀

1862年(文久2年)南摩綱紀は、会津藩の二代目蝦夷地代官としてメナシの地に赴任します。会津藩ではこの年、藩主・松平容保が幕府に京都守護職を任命された年で、藩の財政が逼迫するなか、同時に北方の警備と開拓にもあたらなければなりませんでした

南摩は、メナシ地方のとくに鮭という水産資源に、海を持たなかった藩として今までにない可能性を見ました。そこで構想したのが水産業を基軸とした領地を作ることでした。また、領地を作るにあたり元々そこに住んでいたアイヌの協力が必要不可欠と考えていました。従来のようにアイヌを単なる労働力として搾取し酷使するのではなく、和人と同様に自領の民として扱い、ともに領地を開拓しようと思いました。そのためには、アイヌに和人の考え方や価値観を理解してもらうことが必要であると考えました。

南摩は、赴任前に松浦武四郎のもとを頻りに訪れ蝦夷地についての知見を得ています。その中で、武四郎と交流のある加賀伝蔵のことも聞いていたと思われます。アイヌとともにあろうとする姿勢を高く評価し、会津藩の蝦夷地経営に欠くべからず人材として、「大通辞」「支配人」に抜擢し重用しました。

メナシのアイヌとともにこの地方の発展を目指した南摩は、在職中各村を巡りアイヌを集めて、人間として生きる道を教えたと言われています。「加賀家文書」には、和語・アイヌ語で書かれた「五倫名義解」という資料があります。五倫とは儒教で人の守べき五つの道が説かれているものです。長年蝦夷地で生活しアイヌの良き理解者であった伝蔵は、南摩の熱意に打たれ精魂こめてその教えをアイヌ語に訳したものと思われます。南摩が各村を巡る時は、伝蔵が通辞(アイヌ語通訳)として随行していました。



南摩綱紀(『環碧楼遺稿』より)



「鱒形図拾壹品・鮭形図四品」



「五倫名義解全」



「五倫名義解」

別海町郷土資料館だより No.304

発行日 令和6年11月1日  
発行所 別海町郷土資料館  
別海町別海宮舞町30番地  
電話 0153-75-0802 (FAX兼)

### 編集後記

金庫のロケは、かなり時間がかかったようです。(放映時間の何十倍) 当館の戸田主幹が対応にあたりました。バラエティーのため軽快なトークやリアクションが求められたようですが、難なくこなしていたように見えました。(さすが)